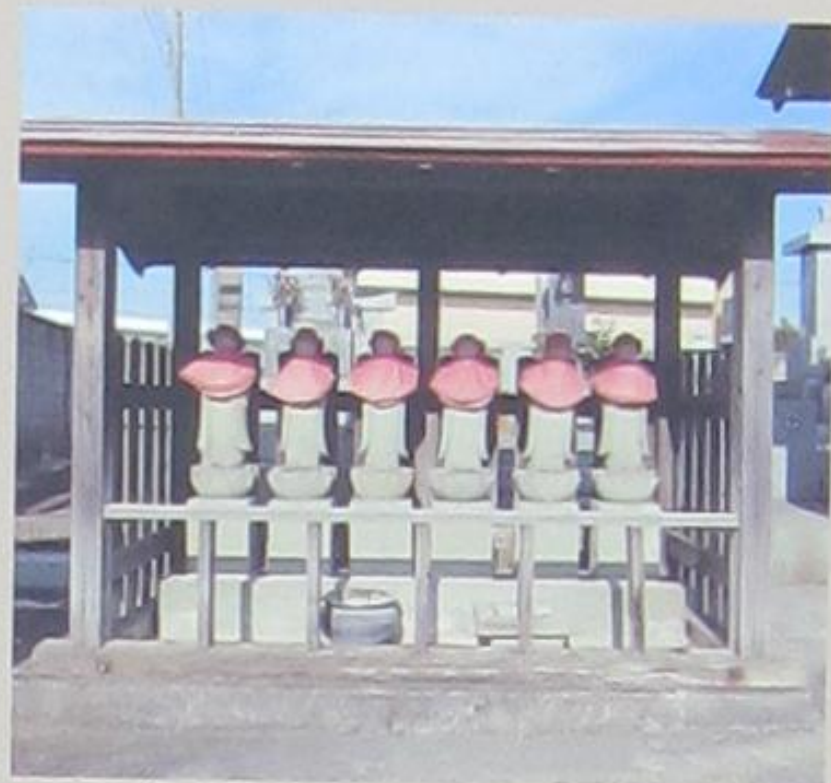


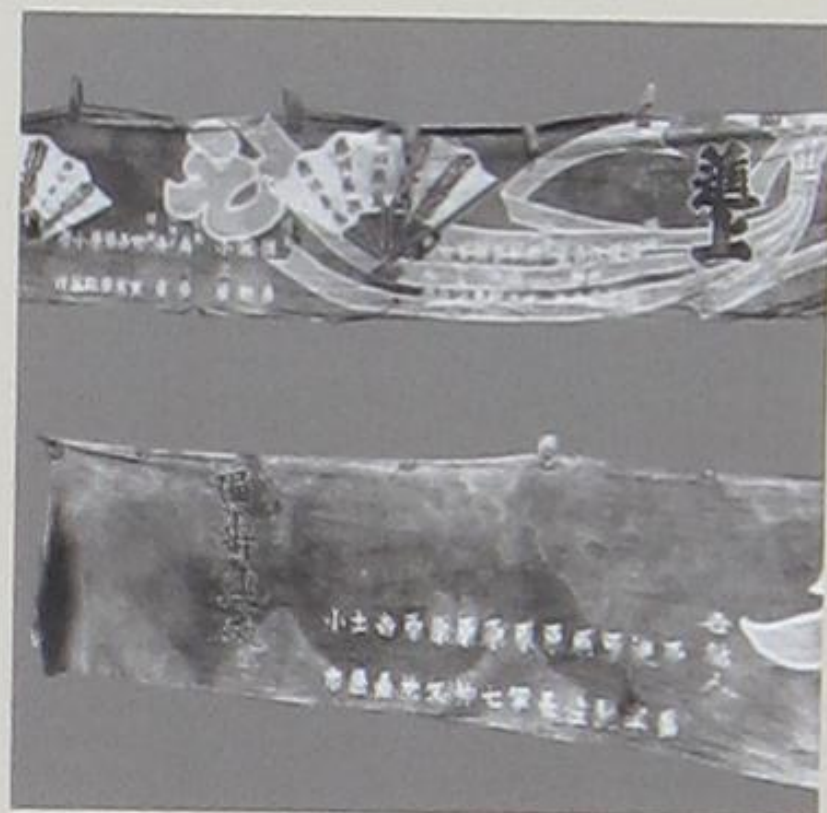
回漕問屋江戸屋寄進の六地藏・万作芝居

下福岡共同墓地の二角には、安永十年（1781）四月に、施主吉野三之助妻・原田五右衛門・原田善兵衛と下福岡村中念佛講により建立された丸彫立像一体型の六地藏菩薩が安置されています。万作は豊年万作とも言い、江戸末期から明治期にかけて秋祭りに神仏に感謝し、来るべき年の豊作を祈念するため、踊りや芝居が上演されたものです。下福岡には福寿連と呼ばれる素人芝居の二座が結成され、ここ「釈迦堂」を中心に、同村の天満宮（天神社）、駒林の八幡神社、滝の長宮氷川神社等でも上演



六地藏

されていきました。福寿連の万作は途絶えてしまいましたが、芝居の台本二点、水引き幕が上福岡歴史民俗資料館に保存されています。



福寿連の水引き幕

